

第3回登米市総合教育会議会議録

会議の名称	第3回登米市総合教育会議	
開催日時	平成28年7月29日(金)	
	午後 3時00分	開会
	午後 4時36分	閉会
開催場所	登米市迫庁舎3階 第3委員会室	
出席者氏名	市長	布施 孝尚
	教育長	佐藤 信男
	教育委員	畠山 信弘
	教育委員	橘 智法
	教育委員	小野寺 範子
	教育委員	大久保 芳彦
欠席委員	なし	
傍聴者	なし	
事務局職員氏名	総務部長	千葉 博行
	教育部長	志賀 尚
	教育部次長兼教育総務課長	伊藤 隆敏
	学校教育管理監	伊藤 浩
	教育企画室長	岩淵 公一
	学校教育課長	三浦 徳美
	活き生き学校支援室長	菊 祐二郎
	生涯学習課長	佐藤 嘉浩
	文化財文化振興室長	佐藤 貞光
	市長公室副参事兼室長補佐	幡江 健樹
	教育総務課課長補佐	小野寺和伸
	議題	議題1
議題2		学校教育におけるよりよい人間関係の構築について

議題・ 発言	司会	<p>開会（午後３時００分）</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、第３回登米市総合教育会議を開催いたします。開会時間は午後３時といたします。</p> <p>初めに、市長から開会のごあいさつを申し上げます。</p>
	布施市長	<p>あいさつ</p> <p>第３回登米市総合教育会議を開催するに当たり、委員の皆様には大変ご多忙のところご出席を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>本日の会議の議題といたしましては、まず、登米市教育基本方針体系別主要事業の進捗状況についてご確認をいただき、それから、学校教育におけるよりよい人間関係の構築についてご協議をいただきます。</p> <p>夏休みに入ると同時に、いろいろなゲームが広まってきているようです。例年、暑い時期になると外を歩く子どもの数は少なくなるものですが、今年は迫庁舎の前辺りには、暑いにもかかわらず、子どもたちが出歩いているような状況です。</p> <p>先ほど、登米町に向かう途中、森地区の直線の県道で軽自動車が縁石を乗り越える事故を起こしておりました。若い女性が運転していたようで、どうしてこれほど真っ直ぐな道で事故が起こるのかと思いながら、世間で話題になっているものの功と罪のようところが少し垣間見えた気がいたしました。</p> <p>そういった意味では、子どもたちは今、毎日、夏休みということで、それぞれに意欲を持った取り組みをしていると思います。その子どもたちが真っ黒に日焼けをして夏休み明けに学校に戻ってきたときに、子どもたちが生き生きとした２学期の学校生活を営むためにも、ここで我々が情報共有や知恵を絞っていききたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。</p>
	司会	<p>それでは、議事に入ります。議事の進行に当たりまして、布施市長に議長をお願いします。</p>
	議長・布施市長	<p>それでは、議題に沿って進めます。</p> <p>（１）「平成２８年度登米市教育基本方針体系別主要事業の進捗状況について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
	説明・伊藤教育総務課長	<p>それでは、「平成２８年度登米市教育基本方針体系別主要事業の進捗状況」について、説明をさせていただきます。本件につきましては、第２回総合教育会議の中で平成２８年度登米市教育基本方針及び重点的取り組みを説明し、ご理解をいただいたところですが、その進捗状況について説明を求められておりましたことから、７月末現在の進捗状況をご報告するものであります。</p> <p>お手元に配布しております「資料１ 平成２８年度登米市教育基本方針体系別主要事業一覧」をご準備願います。</p> <p>大項目・中項目・小項目に分類し、教育基本方針における平成２８年度の取り組み内容をそれぞれの項目に分けており、それぞれの目標に向けて実施する事業名とその事業概要を説明し、事業費を表示しております。</p>

議題・ 発言	説明・伊藤 教育総務課 長	<p>す。表の右端、枠外にその進捗状況を簡単に記載しております。縦の線は1か月ごとの目盛りであり、7月末と12月末のところは太い破線とし、1年の折り返しの9月末は太い実線で区分けをしております。</p> <p>凡例にも記しておりますが、薄い網掛けの部分につきましては、事業全体の進捗度を示しております。本年度、全体の事業計画の中で7月末の時点で予定どおり進んでいる場合、7月末のラインまで網掛けで表示しております。</p> <p>また、太い矢印につきましては、個別の事業がどの時期までに完了となるのかを簡単に表しております。</p> <p>記載のとおり、ほとんどの事業が予定どおり進んでいる状況であります。しかし、資料の4ページをご覧ください。「地域に密着したスポーツ活動の推進」の「(1) 子どもの体力・運動能力向上及びスポーツをする機会の充実」に「体力テスト実施事業・総合型地域スポーツクラブとの連携事業」がありますが、網掛けの部分は7月末のラインまで至っておりません2か月ほど遅れている状況です。これは、平成28年度の新たな取り組みであり、総合型地域スポーツクラブによる学校へのスポーツ指導者派遣のための体制整備を行うものです。まだ実施に向けた調整に努めている状況で、計画より少し遅れています。5ページ以降にも同様に少し遅れのある事業が6件ほどありますが、いずれも、今後、スピードアップを図り、確実な実施に向けて努めてまいります。</p> <p>個々の事業の説明につきましては、省略させていただきます。</p>
	議長・布施 市長	<p>それでは、資料に基づいて委員の皆様からお気づきの点や要望等をお願いいたします。</p>
	教育委員・ 畠山委員	<p>基本方針の中でも、箱物であるとか研修等で日程が組まれているものと、例えば幼稚園教育の(1)「基本的生活習慣の定着のための家庭や地域との連携強化」というようなことは、尺度がかなり違い、定着度を計ることは難しいと思います。推進はしていても成果としては十分でなかったという場合も考えられますので、最終的な評価においては事業ごとに違いが生じるのではないかと感じました。そうした検証について各担当部署で話し合い、年度末に達成度がきちんと把握できるような手法を工夫していただきたいと感じました。</p>
伊藤教育総 務課長	<p>ご意見のとおり、箱物など目に見える形の事業につきましては、確実にその成果で評価ができると思いますが、人と人とのかわりのように目に見えないものにつきましては、なかなか客観的に成果を評価することが難しいと思います。資料に掲載の項目につきましては、すべてが新しく取り組んだものではありません。これまでも継続して取り組んできたものもあります。しかしながら、本年度の教育基本方針を基に計画した中で、継続して強力に推進しなければならない事業として、それぞれの部署において常に念頭に置いて取り組んでいくために項目立てしているという面もあると思います。</p> <p>従いまして、年度末の評価の時期に当たっては、客観的な数値に加えて、1年間、取り組んできたことを思い出しながら、抽象的な評価にな</p>	

<p>議題・ 発言</p>	<p>伊藤教育総 務課長</p>	<p>る部分もあるとは思いますが、来年度に向けてこういったところをさらに強化していこうとの各部署における評価、そして次年度へのつなぎというふうにしていかなければならないと考えております。</p> <p>ご指摘いただきました分野の業務につきましても、客観的に評価できる手法も探りながら、取り組んでいきたいと思っております。</p>
	<p>教育委員・ 畠山委員</p>	<p>この資料は、関係機関、例えば、幼稚園や小・中学校、社会教育関係施設、公民館等には配布してありますか。</p>
	<p>伊藤教育総 務課長</p>	<p>配布しております。</p>
	<p>佐藤教育長</p>	<p>登米市の教育基本方針は各学校に示しており、それに基づいて各学校では教育計画を作成し、評価をしていくわけですが、教育活動の実践に当たっては、家庭へのアンケート等も含めてここに記載している取り組みが生かされているかどうかを確認しながら把握する形をとらなければならないと思っています。</p>
	<p>教育委員・ 橘委員</p>	<p>資料にある進捗状況と小学校の公開研究授業に参加させていただいて特に印象に残っているのが、佐沼小学校での算数の授業で、先生方の指導方法の研究が感じられました。資料の中にも記載されていますが、分かる授業が実践されていると思いました。そういった指導方法を市内の学校にも広められるといいのではないかと思います。そういう中で、学び支援コーディネーターの皆さんなどの学習支援の仕組みも定着してきていますから、そういう部分を伸ばしていきたいと思っております。</p> <p>私も自分の子育ての中で妻と話しているのが「ほめて伸ばす」か「しかって伸ばすか」ということで、両方とも大事だと思いますが、ほめるときは結果をほめることも大切ですが、過程というか、こういうふうに頑張ったから良かったというふうにプロセスをほめるような手法があるといいのではないかと思います。</p> <p>資料からはそれてしまいますが、地区の区長さんと話す機会があり、津山町の人にはほめるのがあまり上手ではないというようなことが話題になりました。私もなるほどと思うところがあり、ほめるべきことがあったときには大いにほめていいと思うようになりました。子どもたちの活躍を広報紙で取り上げているようなことも含めて、いい形でほめて伸ばすような部分にも、今後、期待したいと思っております。</p>
	<p>教育委員・ 大久保委員</p>	<p>コミュニティスクールの取り組みで、退職された先生方にご活躍いただく場でもあり、また退職された先生方を頼るしかないというのかもしれませんが、相当の人数になるのではないかと思います。</p> <p>退職後も地域のためにご助力いただくことは大変ありがたいのですが、できれば退職された先生方以外に、さまざまな立場で活躍されてきた地域の皆さんにも協力要請するような体制も必要になってくるのではないかと思います。</p>

<p>議題・ 発言</p>	<p>佐藤教育長</p>	<p>コミュニティスクールにおける学校運営協議会のメンバーについては、可能なかぎり幅広い視点から学校をみんなで考えていくという立場上、学識経験者に偏らないよう十分に注意していかねばならないと考えています。ほとんどの学校の場合、学校運営協議会の委員の中に退職された先生は1人程度で、あとは地域の方々とかPTA等から入っていただいておりますが、改めて偏りのないよう進めていきます。</p>
	<p>教育委員・ 小野寺委員</p>	<p>一般の方が学校とか放課後子ども教室とか子どもの創造性とか、いろんなところで活躍できるような場があればよいと思います。いろんな面で、子どもたちを市全体で育てていることを実感できる登米市になると思っております。</p> <p>また、この資料にある各項目について、スピード感をもって3月まできちんと仕上げていただきたいと思います。</p>
	<p>議長・布施 市長</p>	<p>7月末までの計画に到達できていない部分もあるという説明ですが、計画以上に進んでいる事業もあるのではないですか。矢印の期間が年度の途中で終わっている項目は、いろんな分野の整備であるということは分かります。例えば、1ページ「2 小・中学校教育」の(1)の「②教育用コンピューター更新事業」はハードの整備事業で、矢印の期間の表す意味は、それを活用するという事まで含めて期間を表していると思いますが、事業の内容を考えたときには、あくまでも教育用コンピューターを更新することが目的であるので、進捗度合いはもう少し違っているのではないかと思います。コンピューターを購入して活用するまでが事業だということであれば記載のようになりますが、更新事業としてコンピューター購入の進捗度合いをみるとすれば、発注が完了して10月ごろには納入の見込が立っている場合、現時点で50%程度の進捗度合いということにかまわないと思います。</p> <p>この資料だと、全部、一律に見えてしまうので、未達成の項目は進めていくこととして、予定以上に進んでいる項目もそのとおりに評価していいと思います。</p>
	<p>教育委員・ 畠山委員</p>	<p>先ほども申し上げたように、進捗を表すための方法は項目や事業の内容によってとらえ方が変わってくるので、整備事業や箱物事業などの場合は期限があるでしょうから、進捗度合いの表し方を工夫していただきたいと思います。</p>
	<p>議長・布施 市長</p>	<p>そうしたところは、事務局で精査し、表現の中に盛り込んでいただきたいと思います。進捗状況ということでもありますので、今後も教育委員会でも報告されると思いますし、総合教育会議の中でも報告されるようお願いいたします。</p> <p>それでは、議題の(1)については、よろしいですか。</p>
		<p>「はい」の声あり</p>

<p>議題・発言</p>	<p>議長・布施市長</p>	<p>それでは議題の（２）「学校教育におけるよりよい人間関係の構築について」を議題といたします。事務局から関連する内容の報告をお願いします。</p>
<p>説明・菊活き生き学校支援室長</p>	<p>説明・菊活き生き学校支援室長</p>	<p>登米市で課題になっておりますのが、いじめや不登校ということがあります。必ずしもすべてが人間関係ということでもありませんが、大きな関連性がありますので、登米市内の子どもたちの不登校の状況について資料を準備いたしました。</p> <p>初めに、不登校出現状況の推移です。平成24年度から平成28年度まで、今年度は6月末現在ですが、人数及び出現率を表に整理し、県内の状況との比較の意味で平成26年度までの県内の状況も記載しております。</p> <p>小学校では、平成25年度がピークで減少傾向にありますが、中学校では、毎年、増加しております。宮城県としても全国で最も多いくらいの状況で、その宮城県の中でも登米市は多いという状況であります。</p> <p>特に、平成27年度につきましては、宮城県及び全国の数字がまとめられておりませんが、市内の中学校では4.18%の出現率で、宮城県内の出現率を超えている可能性も考えられます。</p> <p>次に、欠席日数別の不登校を表にしております。年間で何日、学校を休んでいる児童・生徒が何人いるかという表になっています。</p> <p>小学校では、平成26年度と平成27年度を比較すると、欠席日数が161日以上というほぼ全欠に近い児童数が6人から1人に減少し、全体的には改善の傾向にあります。</p> <p>中学校では、全体的に増加しているのが分かります。</p> <p>次に、不登校の主な要因として学校から報告されておりますことを記載しております。小学校では、さまざまなことが要因として挙げられていますが、必ずしも一つだけの理由ではなく、複数の要因が絡みながら不登校につながっているのが現状ととらえております。中学校では、小学校で報告されている要因に加えて、進路や学習、部活動の悩みなども不登校の要因となっています。</p> <p>それから、登米市教育委員会としての対策です。不登校の問題を考えたときに、まずは未然の防止ということで、不登校になるのを防ぐのが大きく、温かい学級をつくる、好ましい人間関係をつくるのが大事であると考えています。そのためにも「安心して学習できる学級づくり」の一つの手立てとして「ハイパーQUアンケート調査」を年2回、実施しております。</p> <p>さらには、相談体制の充実ということで、なかなか不登校になるのを防げない児童・生徒への対策として、早期発見・早期対応により、学校に目を向けさせる、学校に復帰させる取り組みを実施しています。相談体制の充実により、できるだけ児童・生徒や保護者の不安を取り除き、よりよい方向に進めるように取り組んで参ります。</p>
<p>議長・布施市長</p>	<p>議長・布施市長</p>	<p>それでは、市内の小・中学校における不登校の実態等について報告がありました。委員の皆様から内容の確認やご意見等をお願いいたします。</p>

議題・ 発言	教育委員・ 島山委員	年間の授業日数は、何日ですか。
	菊活き生き 学校支援室 長	年間、約200日です。
	教育委員・ 島山委員	校長会や教頭会を通して、指導されていますか。
	菊活き生き 学校支援室 長	児童・生徒への指導のスキルなどは、校長会や教頭会で話しております。登米市教育研究所でも、カウンセラー研修会などにより、先生方のスキルアップを支援しているところです。
	佐藤教育長	<p>昨年度までと違っているのは、学校の校務分掌の中にこれまでは「生徒指導主任」というようなものがありました。今年度からは「いじめ・不登校担当」を入れていることです。今までは「生徒指導」のすべてを担当するので、不登校の児童・生徒がいても専門に対応することは難しい体制でした。本年度からは「いじめ・不登校」を専門に担当する職務として校務分掌の中に位置付けられたので、担当職員が専門に対応するとともに、組織として対応するよう指示しております。</p> <p>今までも、各学校では実情に応じてしっかりと対応しておりますが、本年度から専門に担当するよう校務分掌が改められましたので、より充実した対応ができると考えております。</p>
	教育委員・ 島山委員	各学校では、具体的にどのような取り組みを新しく始めていますか。
	佐藤教育長	<p>新たに不登校を出さないということを前提に、取り組みを指示してきました。各学級で一人ひとりの子どもたちをしっかりと見ていくこと、そして、先ほど橘委員から指摘ありましたが、授業に魅力を感じないと子どもたちは意欲をもって取り組めないという状況もありますので、学級づくりと授業の充実を指示しております。</p> <p>これまでと大きな違いはありませんが、子どもたちの日常の生活の状況をアンテナを高くしてしっかりと見ていくという内容になります。</p>
	教育委員・ 小野寺委員	ハイパーQUアンケートですが、一番必要な不登校の児童・生徒はこのアンケートを受けていますか。
	菊活き生き 学校支援室 長	実施時期に登校していなければ、アンケートには入っておりません。
	教育委員・ 島山委員	ハイパーQUアンケートに不登校の児童・生徒は入っていないということについて、その子どもたちはそのままマイナス側の結果に集計され

<p>議題・ 発言</p>	<p>教育委員・ 島山委員</p>	<p>ると思いますが、いかがですか。</p>
	<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>ご指摘のとおり、マイナス側の結果に集計されるものと思います。</p>
	<p>教育委員・ 大久保委員</p>	<p>昔の状況からはとても考えられない異常な数字と思いますが、これが現実で、不登校の要因も説明ありました。これ以外にもさまざまな要因が重なって、現状があると思います。</p> <p>家庭環境についてはなかなか難しく、先生方や地域が頑張るというよりも、福祉の分野からも支援いただき、プライバシーの問題もありますが、家庭の実態も踏まえて子どもたちが登校できる環境を整えていかなければならないと思います。</p> <p>説明された要因の中には努力して解決できる項目もありますので、地域が一体となって取り組んでいく体制づくりをお願いします。子どもたちをもつ親だけでなく、広く不登校の実態を伝えていく必要があると思います。教育現場だけで不登校を減少させるのは、なかなか難しいと思います。義務教育だけでも受けてほしいと思います。</p>
	<p>議長・布施 市長</p>	<p>ハイパーQ Uアンケートは何回も実施するわけで、一人一人についての結果の追跡などは、この調査の中で行われますか。全員というのは難しいと思いますが、一部の児童・生徒に対して追跡調査や遡って結果を確認するというようなことはしていますか。</p>
	<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>追跡調査や遡っての結果の確認は、実施しています。年2回実施しているのは、そうした狙いもあります。6月には、児童・生徒がどういう思いで登校していたのか、それが11月にはどのように変わっているか、具体的・客観的なデータ化もできます。その結果を基に、日ごろから子どもたちを見ていくことが大切だと思います。結果につきましては、経過・推移ともに把握しております。</p>
	<p>議長・布施 市長</p>	<p>確認したいのは、年度内の比較ではなく複数年度の遡りをしながら、傾向が見て取れるかということです。一人一人個別のケースになりますので一概には言えないと思いますが、そういう検証の中で不登校になってしまった子どもたちの傾向等の有無、仮に特徴的なことがどこかにあって、現在、在籍している子どもたちにもそういうリスクがあるとすれば、不登校の子どもたちにどのようにアプローチするか、見えてくるのではないかと思います。</p> <p>早期発見といっても、不登校になってからの発見ということになりますね。そうすると、未然防止ではなくて、欠席が始まってからの対応になります。ハイパーQ Uアンケートの結果を個人の結果だけを見るという活用だけでは、発見にはつながっていかないと思います。これまでの実施の蓄積があるので、登米市教育委員会だけでできるのか、集計・分析の業者も含めていろいろな視点から研究する必要があるかを検証す</p>

議題・ 発言	議長・布施 市長	<p>るのも、ハイパーQ Uアンケートの内容をより精度の高いものにしていくための取り組みになると思います。</p> <p>相談体制の充実や早期対応といっても、欠席が始まってからの早期対応にならざるを得ないということであれば、その辺も考えてみたほうが良いと思います。</p> <p>それから、小学校・中学校と分けていますが、単年度の数字だけで見ると見えない部分があって、ある学年で特徴的な傾向があると、その学年の子どもが翌年度、中学校に進学すれば、数値としては大きく減少します。それが、本来の数値としての変化なのかどうか、統計として整理していく中では、本年度に出現率が下がっていても翌年度にまた大きく増えてくるとか、小学校の減少により中学校での出現率が大きく増える要素ではないかという分析が必要だと思います。</p> <p>欠席日数も、前半に多かったのか、後半に多かったのか、年を通して平均的に欠席していたのか、個人としてみていくと、それぞれに違っているわけですね。例えば、前半に欠席が多くて後半に少なかった場合は回復傾向にあるためとか、前半に少なく後半に多くなった場合はそのまま翌年度の不登校につながっていったなど、結果を基に系統立てて取り組みができるのも自治体の強みだと思います。国では、数値のみから不登校の増減を言うだけで、このような対応はできません。結果を現場に落とし込んで分析し対応することは難しいとは思いますが、自治体や個別の学校として工夫する余地があると思います。このことは、不登校の問題だけではなく、例えばメタボの問題なども、同じだと思います。私が歯科校医を務めていたとき、学校保健会に出席した際、こういう統計の数字が示されました。ある学年の男子の平均体重が大きく上回っているというような資料が示されます。詳細を聞いてみて、特別に体格のいい児童がいた場合は平均値を大きく押し上げ、虚弱な体質の児童が数人いれば平均値はずっと下回ります。それが県平均や全国平均より上だとか下だとか説明されますが、ある程度の規模までの学校でなら、個別指導となると方法は難しいですが、何か改善に向かうようなアプローチが工夫できるのではないかと思います。</p> <p>不登校の改善においても、傾向などが見出せるような工夫ができるのではないかと思います。</p>
	菊活き生き 学校支援室 長	<p>平成26年度から平成27年度にかけて、不登校の児童・生徒の状況の変化は把握しております。平成27年度になって不登校日数が減少している人数は、小学校では2人、中学校では9人です。平成26年度から継続している人数は、小学校では10人、中学校では小学校から継続している人数を含めて56人と、なかなか改善は難しい状況です。平成27年度に新たに不登校になって人数は中学1年生が最も多く、21人です。小中の連携は、これまで以上に深めていかなければならないと思っています。</p>
	伊藤学校教 育管理監	<p>ハイパーQ Uアンケートの調査結果の分析による未然防止、あるいは兆候の表れが見られるのではないかということについてですが、このアンケートは簡単に言えば「学校や自分のクラスが楽しいのか、つまらな</p>

<p>議題・ 発言</p>	<p>伊藤学校教 育管理監</p>	<p>いのか」、それから「自分が受け入れられているのか、そうではないのか」というようなことをグラフ化し、そのグラフの特定の部分に位置する場合は不登校の傾向が非常に強いというようなことが見えるものです。この調査を行うことによって、不登校の可能性のある子どもを早期に見つけられる長所があります。さらに、調査結果により、集団のタイプが表れてきますが、一つ一つの学級の集団としてのタイプが違っているので、どのようにアプローチし改善したらよいかという手引きのようなものもあります。ところが、なかなか学校ではすべてのタイプに応じた研修などが十分にできるわけではありません。先日も、総合教育センターの指導主事を教育研究所に招き、ハイパーQUアンケートの結果をどのように指導に生かし、改善したらよいか、研修会を開催しておりますが、年に1回か2回の実施ではなかなか改善しきれない状況です。</p> <p>個別に遡って調査ができるのかということについては、すべて個別の結果が残っておりますので、追跡調査はできます。それがなくても、教員は「この子どもは、何年生のとき、こうだった」というようなことは分かりますので、それとデータを照らし合わせて対応しております。</p>
<p>議長・布施 市長</p>	<p>議長・布施 市長</p>	<p>ハイパーQUアンケートの精度を高めていくということで、学校現場だけで対応するのではなく、フィードバックというか、集計・分析の受託業者に返していくことによりデータの蓄積が膨らんで、指導のマニュアル等の中にも反映される部分があるのではないかと思います。</p> <p>5年前、10年前と比較して学校の雰囲気とかクラスの状況が同じなのか、多少なりとも変わってきているという印象があるのなら、そういう部分も含めたやり取りにより、ハイパーQUアンケートのバージョンアップに協力できると思います。</p> <p>ハイパーQUアンケートの結果の蓄積だけでなく、個別の学習指導の記録も残っていると思いますので、子どもたちがどういうふうに学校で過ごしてきたのか、先生方は十分に把握されていると思います。</p> <p>クラスのタイプも、同じ学年に複数のクラスがあれば、クラス分けの中で工夫する余地があるかもしれませんが、ずっと持ち上がっていく状況であれば、クラスのタイプを変えることは難しいと思います。</p> <p>それから、不登校の主な要因をみると、中学校の場合、不規則な生活と家庭環境とはまったく別かということ、イコールになりませんか。挙げられている項目のいくつかが重なり、不登校になっていると思います。</p>
<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>主な要因ということで、記載のように報告されていますが、さまざまな要因が絡み合って、不登校になっています。</p>
<p>議長・布施 市長</p>	<p>議長・布施 市長</p>	<p>不規則な生活というのは、どういった状況ですか。</p>
<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>菊活き生き 学校支援室 長</p>	<p>昼夜逆転の状態が多いです。夜遅くまでゲームをし、起きる時間に寝ています。夜遅くまでゲームをするようになった要因がその前にあり、なぜそうなったかがもっと前にあるという状態です。</p>

議題・ 発言	議長・布施 市長	<p>そういった意味では、本年度から「いじめ・不登校担当主任」が各学校に置かれたということなので、少しでも取り組みを進めていただきたいと思います。出現率4.18%という、各クラスに2人ぐらいいはいるということですね。</p>
	佐藤教育長	<p>全国では36人に1人の割合で、登米市では24人に1人です。クラスに1人以上いることになります。</p>
	教育委員・ 畠山委員	<p>主な要因ですが、学校では一生懸命対応されていますが、生まれてから学校に入学するまでの家庭生活に起因する項目が多くみられます。家庭の教育力の低下というか、子どもが精神的に自立できるような指導ができていれば解消するようなことがかなりあると思います。不規則な生活や精神的不安、家庭環境という項目については、生い立ちや現在の家庭の状況に問題があって子どもたちが安心して帰れる居場所がない、基本的な生活習慣が十分に身に付いていない、愛情が十分でないなど、家庭の教育力が機能しないために集団生活の土台が形成されないまま、幼稚園・小学校・中学校の集団生活に入ってしまう、家庭が担うべきしつけまでも学校が担わなければならない現状が学校を苦しめているのではないですか。それが現状であれば、家庭との協力関係が大事になってくると思います。担任の先生と、本年度からは「いじめ・不登校担当主任」を校務分掌に位置付けたということなので、期待されるわけですが、根本である家庭教育や幼児教育での指導、あるいはしつけのようなものが大事だと思います。</p>
	教育委員・ 小野寺委員	<p>教育委員会の施策としても、幼児教育、学校教育、家庭教育においてしっかりと課題をとらえて取り組んでいかないと、中学校に入学後に不登校になったからといって、改善は難しいと思います。資料の説明により中学校の先生方の苦勞が見えるようですが、この現状を変えるための対策が必要であると思います。</p> <p>昨日、栗原市から幼稚園の研修会に招かれ、教育長と話す機会がありました。栗原市では、本年度から幼稚園が3年になり、市議会でも幼稚園に期待しているということでした。</p> <p>不登校がなければ、学力向上にもつながると思います。幼稚園において保護者の教育をしっかり実施していけば、未然防止ができると思います。福祉の分野との連携も必要で、家庭教育が一番必要ではないかと思います。</p> <p>家庭や保護者の現状も、三交代勤務などで親の帰宅を子どもが寝ずに待っているような家庭もあると思いますが、きちんとした形で親の教育をする必要があると思います。PTAの活動は自主的なものですが、学校から研修会の開催などを働き掛けてもいいと思います。</p> <p>子どもたちの話を聞いてあげる先生にならなければいけないと思いますので、先生方の研修も必要だと思います。小学校では、答えを出さなくても話を聞いていただくだけで、子どもたちは安心できると思います。</p> <p>また、中学校では、あまり褒められることが無いように思います。勉</p>

議題・ 発言	教育委員・ 小野寺委員	<p>強するのが当たり前、部活で上位の成績を上げるのが当たり前になってくると、そこで子どもたちが萎縮して、勉強もいや、学校もいやというようになると困りますので、最終的には保護者の教育、それも子どもが幼いころからの保護者の教育にしっかり取り組むべきだと思います。</p>
	教育委員・ 橋委員	<p>保護者の教育、家庭教育はとても重要ですが、実際にどのようにするかが難しいと思います。今、学校教育を地域社会全体で支援していく体制ができていますので、家庭教育についても地域社会全体で支援していくことが一つの理想のように思います。具体的に何をすれば効果を上げられるか分かりませんが、本年度から学校の校務分掌に「いじめ・不登校担当主任」が位置付けられたということですが、学校内での情報共有は十分になされていると思いますが、各学校の担当主任の先生方が一堂に会し、それぞれにどのような問題を抱えているかなどを話し合う機会も設けていただきたいと思います。</p>
	教育委員・ 大久保委員	<p>不登校になった児童・生徒を登校できるようにするのは非常に困難かもしれませんが、登校できるようにするプロジェクトも必要だと思います。けやき教室もありますが、利用状況は不登校の人数からすれば少ないので、不登校の子どもたちが、将来、仕事をするようになったとき、大変な事態になると思います。社会とかかわり合えるように育てていかないと、社会の一員と自覚できないのではないかと思います。</p>
	佐藤教育長	<p>不登校の状況について、皆さんからお話ありましたが、各学校では試行錯誤しながら、何とかして子どもたちを登校できるようにしようと取り組んでいます。</p> <p>先日、市内の中学校の校長先生が教育委員会に来庁した際、その中学校が一番不登校が多いので、状況を聞いてみました。本人の性格、保護者も含めた家庭の状況等がさまざま、学校から相談を持ち掛けても子どもが登校したくないというのだからかまわないでほしいという家庭、子どもが登校できるように一生懸命な保護者、遊びほうけている生徒など、同じような対応はできないということでした。子どもたちとの関係だけは切らないように、学校でみんなが待っていると心配しているというように、関係だけは切らないようにしているということでした。</p> <p>学校に行きたくないという反面、学校から忘れ去られるときびしいという思いと、不登校の子どもたちには両方あるということです。学校では、電話や家庭訪問により、つながりが切れないように努めているということです。</p> <p>卒業や進学により不登校の人数が減りますが、それよりも入学によって増える新たな不登校の人数のほうが多くなっている状況です。新たな不登校を出さない、そして不登校の子どもたちを登校できるようにするには、新年度が大きなチャンスだということです。その中学校でも、5月ごろまでは5人が何とか登校できるようになったそうですが、6月にはまた不登校になってしまったということで、毎年、そうした繰り返しになっているようです。</p> <p>学校としては、15歳の学力について、責任を持ってしっかり教えて</p>

<p>議題・ 発言</p>	<p>佐藤教育長</p>	<p>いかなければならないと思います。 自分の意思で外に出て、勉強できる力が身に付いていればいいと思います。行き先は学校でもけやき教室でもいいので、そういう力をつけるためのかわりだけは続けていかなければならないと感じています。</p>
<p>議長・布施 市長</p>	<p>議長・布施 市長</p>	<p>全国的には、夜間中学のように社会人になって改めて学び直す仕組みがあります。 佐沼高校の定時制では、不登校の子どもたちが進学するケースが多いことから、学力を身に付けるため、補助教材として小・中学校のドリルを使っているそうです。 高校に通おうなど、いくらかでも前向きになっているときに、すくい上げるといふか、きちんとかかわってあげると、そこから定時制の先生方だけという狭い範囲の中でも、まずは社会との接点が切れなくて続いていく、そういった経験をしながら定時制高校を卒業するときに、それまでは自宅と高校の往復だけで外との接点を設けようとしなかった子どもたちが、就職試験を受けにいけるようになったということで、高校でもよくやったと褒めているということです。就職できれば最高の結果ですが、就職できなくても試験までは行けた、あるいは、インターンというようなことに1週間は通えたという子どもたちもいるようです。 今後、義務教育課程にとどまらず、市内に開校する通信制の高校についても、そういった受け皿になっていく部分もあると思っています。宮城県教育委員会でも期待しているということであり、教育長をはじめとして教育部局でも連携をしていただきたいと思います。 それから、主な要因の不規則な生活の人数が中学校で極端に増えるということは、家庭の中で放置しているということだと思います。昼夜逆転といっても、幼いころは眠くなって起きていられなかったのが、だんだん宵っ張りになり、大人の行動に付き合わされるようになって昼夜逆転していくということも、傾向としてはあると思います。そのことが将来、改善が難しいさまざまなことの要因になると、幼稚園・保育園等で保護者の皆さんに伝えていくのも必要になると思います。こうしたことは、母子保健の中で子どもの生活のリズムをつくるという視点でアプローチするとか、市長部局でも取り組みを模索していきたいと思います。 不登校の解決に向けて答えは一つではないと思いますので、今後も情報の共有や事例を紹介いただく中で、対策を検討していきたいと思ます。</p>
<p>佐藤教育長</p>	<p>佐藤教育長</p>	<p>先ほどお話ありましたが、学校の負担が大きすぎるというようなことがあって、いろいろな問題を学校だけで解決するのは難しいということで、今、推進しているのが地域とともにある学校づくり、コミュニティスクールを一層充実させることによって、みんなで地域の子どもたちを支えることで、子どもたちも地域に入っていく、地域も活性化して各家庭についても地域の中で見合っていく、そんなところもコミュニティスクールの狙いでもあります。この取り組みの充実によって、ある程度、学校の負担も軽減し、子どもたちをしっかりと見ていけるようになると思います。</p>

議題・ 発言	教育委員・ 島山委員	不登校の中学3年生の進路を教えてください。
	菊活き生き 学校支援室 長	平成27年度に卒業した生徒の内、定時制の高校に進学した生徒を除くと、進路が決まらず在宅の生徒は2人でした。その後、不登校にならずに通学しているかについては、把握しておりません。
	教育委員・ 島山委員	学校に登校していなくても、自分で決断をして進路を決めたのは、素晴らしいと思います。
	佐藤教育長	私がスクールカウンセラーを務めているとき、一番志望されたのは田尻さくら高校でした。単位制の高校でもあり、自分の状況に合わせて通うことができますので、受け皿としてありがたい高校です。今回、市内に三幸学園が通信制高校を開校するという事で、選択の幅が広がってくると思います。現在ではこうした高校も増えてきて、不登校だったからといって高校に進学できないという心配はなくなってきています。
	教育委員・ 島山委員	不登校の傾向にもいろいろあると思いますが、個々に違いがあってチャンスも個々にあると思います。子どもたちを絶対に見捨てないというように対応をしていけば、社会に送り出すことができると思います。地域が一体となって支えることが大切だと思います。
	教育委員・ 大久保委員	コミュニケーションを継続し、閉ざさないことが大切だと思います。長い人生の中で、いつか目覚めるときがくるかもしれませんので、接点を持ち続けていけば、立ち直る機会が何回か訪れるのではないかと思います。 それから、学校再編の問題で、他自治体の例では、再編と同時に不登校が増える傾向があると聞いておりますので、逆に、不登校の子どもたちが登校できるきっかけとなるような学校再編をお願いします。
	教育委員・ 橘委員	青年教育の中で、まちづくりにつながる義務教育修了後の10年間というようなことも、時間に余裕のあるときに話題にしていきたいと思います。義務教育の後に、どのように社会とかかわりを持つかということで、以前は、高校生だとジュニア・リーダーとか、その後であれば青年団活動とか、いろいろな活躍の場がありました。そうした仕組みづくりを行政とか教育委員会主導で取り組むのは難しいかと思いますが、何か試験的な事業でもいいので、案はありませんか。 登米市でも市民歌ができましたが、先日の教育委員会議の後に、各学校では子どもたちに歌う機会を設けているか確認したところ、佐藤教育長から子どもたちはもう覚えていますと伺いました。高校生以上の若い皆さんに市民歌を歌う機会を提供していくことで、若い皆さんが集まるきっかけになるといいと思います。
	教育委員・ 島山委員	青年教育については、話し合う場を設けていただくようお願いいたします。

<p>議題・発言</p>	<p>議長・布施市長</p>	<p>6月ごろですが、ある青年と話す機会がありました。彼は、ジュニア・リーダーとしてずっと活動してきて、現在、20代後半なんですけど、自分たちが活動してだけでなく、後輩のジュニア・リーダーの指導などで活動できるような仕組みができないかと相談を受けました。ジュニア・リーダーの指導にとどまらず、活動の継続・発展も考えているということなので、NPOなどの形で社会活動の中で始めてみる方法があるのではないかと答えました。市民活動プラザのことは彼も知っていたので、相談してみるよう勧めました。</p> <p>このような活動を教育委員会として支援するということではなく、地域としてみんなで応援できるようなかかわりを持つ、そうした活動を見た子どもたちが参加していくようなきっかけになってほしいと思いました。ジュニア・リーダーとしての活動が高校卒業から進学などで一旦切れて、その子どもたちがまた登米市に戻ってきたときに、つながりがまたすぐにできるような場があってもいいと思っています。</p> <p>佐沼の夏祭りで、スケートボードでパフォーマンスをしています。彼らとも話をしましたが、夜間に住宅地の公園で練習していたら、騒音などで警察に通報されたことがあると聞き、それなら、市役所の敷地内でやってみたらどうかと提案しました。そのとき、併せてお願いしたのは、中学生や高校生も仲間に入れてほしいということです。但し、時間は9時までという条件を付けました。</p> <p>家庭でしつけるだけでなく、周囲の身近な大人から言われれば、聞いてくれます。ルールをしっかり決めて活動し、子どもたちにも指導的な取り組みをしてもらえるように働きかければよいと思います。失敗から学べる部分もあり、そうして学んで成長した大人もいるということ、若い皆さんや子どもたちにも知ってもらいたいと思います。</p> <p>不登校についても、学校を休んでいることを負い目に感じるようだと、ますます登校できなくなると思います。</p> <p>それから、社会の目というか、保護司会の皆さんの話では、一度、間違いから犯罪を犯した人の再犯率は3割以上で、薬物依存だとそれが7割とか8割ぐらいまで高くなってしまうそうなんですけど、それ以外は更生している人も7割ほどいることになります。</p> <p>かつて、社会の目にもおもうようなところがありましたが、現在では、厳しく難しくなっているところがあると思います。</p> <p>人材育成という点では青年教育は大きなテーマだと思いますので、総合教育会議という形で開催したほうがいいか、意見交換会のような形でお集まりいただくほうがいいか、私も教育長に相談していきたいと思っています。</p> <p>まだまだ、意見は尽きないと思いますが、議題につきましては終了とさせていただきます。大変ご苦勞様でした。</p>
<p>その他</p>	<p>伊藤教育総務課長</p>	<p>その他といたしまして、資料3ですが、総合教育会議の開催に当たり基本的な事項を記載しましたので、改めてご確認をお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、第3回登米市総合教育会議を終了させていただきます。皆様、大変ご苦勞様でした。</p>